

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にしています。理念が書かれたものを玄関や事務所に掲示し、いつも意識できる様にしています。職員会議では理念に基づくケアを話し合い実践に繋げています。	開所当初から地域密着型サービスの意義や役割を考え、管理者だけでなく職員全体で事業所独自の理念を作り上げ共有している。会議でも話し合いを持ち、日々のサービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や広報誌も普通の家庭と同様に回って来ています。地元小学校の運動会に参加したり、小学生や中学生の訪問もあります。普段の散歩では近所の方と挨拶を交わし交流を深めています。	町内会に加入し、散歩や買い物などの折には地域の人たちと気軽に挨拶を交わしたり、話をしたりしている。又、地元の小学生や中学生の社会授業の受け入れも行い、地域の方々との積極的な交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り相談窓口となっています。又、地域包括支援センター、民生委員等の施設見学に応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成24年4月から2か月に1度定期的に開催し、ホームでの現状を報告しています。現状に合った意見交換を行い理解して頂いています。会議の中で上がった意見やアドバイスを現場にも絡め、向上に活かしています。	会議では事業所から2か月間毎の状況報告とサービスの実践について報告されている。参加メンバーからの質問、意見、要望を伺うことで日々のサービス提供に活かしている。会議後は職員に対しても積極的に情報提供を図っている。	報告や情報交換のみにとどまらず、メンバーから出された意見をどのように対処したか、又、どのような成果が得られたかについての報告も行い、今後の更なるサービス向上に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れや後見人等、入居者の状況について連絡を取り合い、お互いに共通理解を深めるようにしています。	市担当職員、特に包括支援センターとの積極的な連携が構築されており、運営推進会議だけでなく、折に触れ相談、助言、連絡等がなされ、共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず入居者に閉塞感を与えないように努めています。ただ、会談に通じる出入り口については、転落の危険がある為閉鎖し、エレベーターを使用して頂いています。	職員全員が利用者の人権を守ることがケアの基本である、という認識のもと日中の施錠はせず、一人ひとりのその日の気分や状態を職員間で報告共有し、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開き、職員は受講する様にしており、外部研修の受講も推奨している。事業者、管理者は虐待等が起きない様、職員のストレスにも注意し対応、防止に努めています。	外部研修、内部研修で学ぶ機会は十分とは言えないが、高齢者虐待法に関する理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みに力を入れてきている。職員のストレスが蓄積されないよう管理者は職員の相談事に応じることの出来る関係性が築かれている。	虐待は身体的、言葉や無視、心理的なもの、必要なケアの放棄等、多様であることを踏まえ、事業所として外部研修への参加や伝達研修を重ね、更に理解を深めていかれることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対する研修会を開催しています。事業者・管理者は外部研修にも出席し、ご家族の相談にのれる様にしています。実際に制度を利用しているご利用者様が居られます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ホームでの対応範囲や困難な場合についても説明し、納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、意見箱を設置し、自由に思いを外部に出せるように行っています。又、運営推進会議にご家族より参加して頂いています。	家族には手紙や面会時、利用者と共に外出する家族会の機会を設けるなど、何でも話してもらえ雰囲気づくりに努めている。そこで戴いた意見や要望等は、ミーティングで話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にホーム長、管理者が出席し職員からの意見を直接吸い上げる様にしています。	毎月の職員会議にはホーム長、管理者も出席し職員が自由に意見を言える雰囲気づくりに努め、自由闊達な意見、要望が発言されるようになっている。職員からの提案やアイデアの取り上げ、風通しの良い運営体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、取得者には資格手当を支給して励みとなる様にしています。又、お盆休み(夏休み)3日、正月休み(冬休み)3日を支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの研修日程をを事前に示し、研修に参加するようにしております。又、外部研修への参加を勧めています。研修参加者は報告書を提出し、研修に参加していない職員にも情報が提供できるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームJ連絡会に加入しています。他施設との交換研修を行い、情報やノウハウを交換して、質の向上に向けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、ご家族の意向やご本人の計持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に事前にご家族と会い、今までどの様に過ごされていたのか、特に不安に思っている点を伝えてもらい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族とそれぞれ思いが異なる事もあるが、間に入り、両方とも安心したサービスが受けられる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に入居当初はコミュニケーションを沢山取り、入居者様を知り、安心して過ごせる様「一緒にいてほしい・・・」と伝え、関係性を築いています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度ご家族にご様子(ホームでの)を書いたお手紙を送付し、居室担当者を中心にご家族に連絡をとり、共にご本人を支えていく関係を築いています。	今までの暮らしが継続できるよう、日々の暮らしの様子を報告、相談すると共に、家族からの情報も大切にしながら共有に努め、関係が途切れないように留意している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人への手紙を一緒に出したり、昔の友人がホームへ遊びに来られた際、他のご利用者様も含め、次回も訪れやすい環境を作る様に支援しています。	どなたでもが気軽に立ち寄れるホームとしての雰囲気づくを心がけ、馴染の友人、知人との手紙のやり取りや面会の支援、ご家族と一緒に行きつけの美容院へ行ったりと、継続的な交流が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	この方は何がお得意なのか？対人関係はどうか？等を理解して支援にあたっており、職員が間に入る事もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方もホームへ来てくださったり、近況報告を伺ったりと、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾けて、例えば買い物と一緒に出かけ、今必要な物を買ったりし、困難な時はご家族の方に協力して頂いたり努力しています。	居室担当の職員が主となり、ゆっくりと話を聞き、本人の思いに寄り添うような支援がなされている。買い物の希望があれば、できる範囲で同行し、困難な場合は家族に協力を求める等、本人の思いを大切にしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からお話を伺ったり、事前に情報を収集する様に努めています。	入居前に丹念に情報収集を行い、本人のこれまでの生活を把握し、入居後の生活に繋がるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者を中心に気付きを発信し、他職員と現状を共有、把握して日々観察を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々検討を行い、取り組んでいるが、未だ十分とは言えず、今後について検討しなければならない状況です。	本人、家族の意向をふまえた介護計画が作成されている。更新時のみならず関係者が集まり定期的にサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護内容となるよう話し合いがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録をきちんと個別記録をし、特変等は別に記録をして申し送りを行い、情報の共有を実践しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入として、まごころヘルプサービスを活用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野菜作り等を行っている、近所の方に声を掛けて頂いたり、散歩時挨拶を行い、理解してもらえる様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療連携表」を作成し、ホームでの細かい様子をかかりつけ医に受診の際に持参し、ホームとの関係を築く様に努め、適切な指示を頂いています。	原則、受診介助は家族対応となっている。困難な利用者には職員が同行している。「医療連携表」を活用し、日頃の状態が一目でわかるよう工夫され主治医からもわかりやすいと評価されている等、連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護師が定期訪問時に、遅勤職員が責任をもって、日頃の様子や状況を伝え、又指示を頂き支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカー、医師には情報交換や相談機会を設けて貰えるようにしています。入院中はできる限り面会に訪れる事で、安心して頂けるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の往診時にどの職員もターミナルに入られたご入居様の状態を説明する事が出来、常に状態変化について対応方法をチームで共有し、日々チームでリーダー、担当者を中心にご家族にも報告を行い、かかりつけ医と連携し、支援に取り組んでいます。	入居後にターミナルに入られた利用者が1人おり全職員で情報を共有し、状態変化についても対応できるよう主治医と連携を図り取り組んでいる。早い段階から家族と面談し、事業所としてできることを説明確認するとともに定期的な報告、相談を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを含め、オープン前に消防署より、応急手当の研修を受講しています。	消防署の指導のもとAEDの使用方法、応急手当、初期対応の訓練等の研修に参加している。	新しい事業所でオープン前の研修であったため、今後は緊急時に職員がすぐ対応できる実践力を身につけるためにも年1回の研修会の開催に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と2カ月に1回運営推進会議を実施しているが、地域の方より「非常ベルが私達の家にも聞こえると良いですね」と声を掛けてくださり、より積極的に訓練などにも参加して頂きたいと伝えて行きたいと思っています。	事業所内での年2回の避難訓練は実施されている。地域の特性で高齢者が多く協力体制を得るには無理がある。今後は消防署、行政等と連携を図り地域を含めた災害対策の確立をすすめていきたいと考えている。	地域の避難場所への避難経路を実際に確認し、誘導のための所要時間や安全性を確認しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室である為、個々のお部屋はプライベートの部分でもあるので、ご本人様に必ず確認を行った上で入室したり、声掛けを行っています。	居室への訪問時は必ず声かけをし訪問している。排泄の誘導等、他利用者が気づかないようにさりげない配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、入浴時、更衣の衣類を一緒に決めて頂いたり、「今、お茶が飲みたい」という行為に対して、安全性が確認されている場合については、自由に自己決定して頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしようとしていますが、未だ業務中心に1日が流れている様に思えるので、より一人ひとりのペースを大切に行きたいと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と話し合ったり、ご本人のお話を伺ったりし、その方らしく女性はお化粧されたり、ホールに出られる際に動けない方にも必ずブラッシングをして頂き、身だしなみには力を入れています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る方には、野菜を切ったり煮たり揚げたりとされ、配膳も得意な方を中心に手伝ってくださいますが、片付け等職員の都合で同じ方に偏ってしまう事があります。	ホール内のオープンキッチンとなっており調理中の音、臭いで食欲がわくような作りとなっている。利用者の能力、生活スタイルに合わせ、共に行う調理、配膳、片づけがなされている。	調理、配膳、片づけに参加できない利用者に対しても献立作りに参加してもらおう等、食事への意欲を引き出す機会を提供する配慮を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施しています。料理形態も刻みや荒刻み、お粥ミキサー食と工夫したり、水分量、食事量はチェック表を作成し、バランスが崩れないように工夫しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず食事の後1人ずつ確認をし、ポリドント等も定期的に行っており、一人ひとりに合ったケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施しています。リハビリパンツ、パットのみの方テープ止め自立と全く個人個人異なりますが、声かけを行ったり、半介助したりと工夫し支援を実施し、排泄チェック表を作成しています。	1人1人の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた誘導を行っている。トイレでの排泄を基本とし、困難な利用者にも工夫をしてできるだけ自立に向けての支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に必ず牛乳か野菜ジュースを提供し、便秘症の方はそれ以外に冷水を飲んで頂いたり、個々に工夫を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた時間ではあるが、その中でご本人の希望を伺い、対応しています。	本人の希望、生活パターンを考慮し、午前、午後の入浴を選ぶことができる。夜間帯は職員体制の関係で実施には至っていないが、今後はできる範囲内で努力していこうとする姿勢が窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時とあまり違いがない様に、休憩時間の把握や一人ひとりの安眠状態を確認し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をしっかりと把握し、かかりつけ医との連携票を通し、又個々に薬ケースを作り、担当者が配薬し、遅番職員が確認して服薬時に別の職員が服薬を促すというトリプルチェックを行い、服薬の間違いが起これない様に配慮しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、(編み物、詩を書く、本を読む。楽器を演奏する、唄う)等を通し、気分転換となるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物があつたりすると、その都度出かけたり、普段行けない所へは家族に声を掛けて遠出をしたりし、協力し合いながら工夫しています。	外出の希望があればできるだけ支援するよう心がけている。その日の希望となると難しいこともあるが、本人と相談し代替日や時間をずらす等の提案をする配慮がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かっているの、自由にほしいもの等、買い物に行けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話も行え、手紙のやりとりをしているが、出来ない方には電話のダイヤルを回したり、手紙を投函しに一緒に出掛けたりと支援を実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家の様に、玄関先に季節の花々を飾ったり、居間は日光も入り、明るく、夕日等のご利用者様の判断で閉める事も出来、トイレ、浴室は落ち着いた照明を採用しています。	市内中心部に位置し、近隣との空間が多く望めない現状の中、玄関先や居間には季節の花を飾り、各空間に合わせた照明を取り入れ、居間は採光も良く気持ち良く過ごせる工夫が随所に施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬場はこたつを置いたり、ソファを置いたりして、好みの場所で過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居られた時の使い慣れた家具や道具を持参され、ご本人が居心地良く過ごせるように工夫をしています。	居室内はフローリング中心であるが、希望や状態に合わせて和式布団での対応ができる畳敷きのスペースのある居室もある。使い慣れた家具や思い出の品を飾り、本人が安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場面場面で洗濯量み、料理を行う、配る。掃除をする等個々に合わせ、「出来る事」「分かる事」活かして、自立した生活ができる様、工夫しています。		